（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（北アルプス地域）

平成 30 年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	健康な食と憩を提供し、世代間の交流を進める地域コミュニティカフェ
事業主体 （連絡先）	実家の茶の間　　池田町 4371-1　　080-4687-4002
事業区分	②保健、医療、福祉の充実⑧その他、元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ハード
総事業費	1,479,102 円（うち支援金：1,078,000 円）

事 業 内 容

実施時期 4 月 1 日より県道沿いの民家。
火曜日から土曜日の 10 時半～16 時まで

出入り自由のお茶の間はおしゃべり、趣味などで自由に。着物リメイクは定着、ご近所のグループさんが顔を出すようになって楽しまれている。

子どもの学習支援、悩み事相談はまだこれから。夏休みの試験的学習支援には一定の要望があり、きっかけになって定着するよう企画、取り組んでいる。

土曜の食事は地元の食材で食事に欠ける子どもや孤食の高齢者など安くて健康に配慮したものを提供。これまでにイベントや講座講師、調理接待は高齢者が担当。障害者にはイベント時の有償お手伝いをしてもらったり、認知症の高齢者の人でも調理に加わってもらっている。

今回の台所の整備で新しいメニュー開発はまだ成功していないが引き続き池田町の地産地消発信の場としても活かしていく。
現在、無農薬有機の米野菜を提供してもらい、あるいは作ってもらい販売。また、池田町キャラクターのてるみんふーみん安眠ハーブ枕、ハーブお手玉、ハーブ入浴剤など、不要品も利用して作成販売。運営資金に充てている。

高齢者にしか語れない町の歴史を子どもたちに伝え、その子どもたちが外に向けて町を語ることのできるようになる、高齢者の持つ知恵や知識技術を埋もれさせることなく次世代に引き継ぐ場とする取り組みはまだできていない。
乳幼児子育て中のお母さんたちの息抜きの場としても利用されるようになってきた。

子どもカフェの一員としてネットワークの中で教育機関とも情報を共有、連携しながら運営していく。

【流しそうめん

【目標・ねらい】

①放課後行き場のない共働き家庭の子どもたちや不登校などの子どもたちの学習支援や悩み事相談、一日中誰とも話をしない高齢者、引きこもりがちな障害者、気の休まる場所を持たない介護者の居場所として、数は少ないが一定の役割を担っている。
②自元農産品を使った健康に留意した食事の提供はできている。
③特産品の開発に高齢者の知恵や伝統技術を引出すことは未達成。子どもたちも子どもカフェの主体として自主性をも育み居場所を提供することはそれなりに取り組めている。
④こどもも高齢者も自分の存在意義を感じられる居場所づくり。褒められて嬉しそうにする子ども、役に立てて喜ぶ高齢者の居場所となっている。子どもたちの学習支援悩み事相談への対応は長期休みの企画を通してこれからの課題。多様な人の居場所となること、地産地消を柱にした食事の提供は追求できている。

事 業 効 果

火～金お茶の間利用者 1 日 2 人年 200 日稼働で延べ４00 人

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

8 月から土曜食堂 1 日 10 人約 30 日稼働伸べ 300 人。
各種イベント 5 から 30 人延べ 200 人。
高齢者が知恵や知識技術を生かし、食事の提供、学習支援、悩み事相談などを取組みながら子どもたちと交流する。講師や製品開発しながらおしゃべりするなど合わせて延べ 900 人の世代間交流が生まれた。

※自己評価【Ｂ　　】
【理由】学習支援がこれから夏休みの取り組みでどういう効果を得られるか不明。居場所というキーワードについては、人数的に不十分かもしれないが参加した人に対しての茶の間の存在意義は大きいと感じている。

今後の取り組み

引き続き子どもたちの健康を考慮した食の提供を通して,地域の多様な人的交流、世代間の交流の場所として、より開かれた空間を提供していく。乳幼児子育て中のお母さんたちが茶の間を通して、地域的な教育力の恩恵を受けられるような取り組みも進めたい。プラットフォームに書かれた要望に沿い、長期休みに子どもたちの要望も聞きながら遊びの空間を企画していきたい。子どもたちが生き生き過ごせる場所を提供したい。